

新しい国に行くのに、こんなに盛り下がっていた事はかつてない。

女性は黒ずくめらしいし、自分の服装はTシャツ、短パンという訳にはいかない。親日感情は概ね良いというが、最近のイランの若者は日本人を馬鹿にするらしい。さらにこの国、何といても酒が飲めないのが痛い。各国のビールやワインを飲むのが旅の楽しみなのにそれが無い。実に痛い。

まあ、以上の事は仕方がない。イスラムなんだし・・・。

でもでも私の場合、一体イランで何すりゃいいんだという課題がある。勉強不足もあるが、目指すものが何もないのだった。イランには素晴らしいペルシャ絨毯、美しい景色、遺跡などもそれなりにあるらしいのだが、あまり興味がない。

取りあえず50ドルでビザを取ってしまったから、というのが正直なところだ。気分は完全に盛り下がっている。

ウン？似ている・・・。このブルーな感じは、付き合いで何となく行ってしまった合コン会場で、そこに好みの女性が全くおらず、さらに話もあまり合わない時に・・・につにつ似ている。

UAEのドバイからイランのバンダルレンゲという港まで行くフェリーは、イランの会社の運営にも関わらず、205ディルハム(6,366円)と異常に高い。距離にしてわずか200キロ。

何でこんなに高いのかよく分からない。もしかしたら外国人料金なのかも。嫌なフェリーである。ウン？似ている・・・。駅に近くてオシャレというだけで、料理の値段はバカ高い、しかも男性は傾斜配分で取り分け高い、という合コンに・・・につにつ似ている。

イランの船なので船内ではきっとビールを売ってないだろう。UAEのイミグレを終えると、デューディーフリーがあったので缶ビールを2本買い、隠して船に持ち込んだ。さすがにイラン国内には持ち込めないのに到着するまでに飲む積もりなのだが、よくよく考えると、酒の臭いをさせてイミグレを通ると嫌がらせを受けそうである。船に乗って直ぐに2本とも飲み干す事にした。まだ朝の9時台だった。このフェリーに乗る為に、早起きして朝ご飯も食べずにやってきたので一気に酔いが回る。寝不足も手伝いぐっすり寝た。起きてみると何だか見慣れた景色が。全然動いていなかった。出港したのは結局12時近くで、よく分からないが遅れているみたいだ。7時過ぎには港に来ていたのに何なんだろう。かなり嫌なフェリーである。

ウン？似ている・・・。合コンの日は、5時5分の始発電車で会社に行って必死でその日の仕事をこなし、会場には時間通りに駆けつけたのに、みんなが仕事の都合で遅れて来て、2時間近く遅れてスタートする合コンに・・・につにつ似ている。

ようやくランチタイム。出されたのはアルミ箔でできた箱。開けてみると一面真っ白いお米。おかずを待っていたが、全然こない。ふと回りを見渡すと、鶏肉らしき物を食っている。実はこのお米の下の方に、鶏肉が沈められているのだった。変な弁当だ。これにしょっぱいヨーグルトとコーラが付く。因みにコーラが一番美味かった。徹底的に嫌なフェリーである。

ウン？似ている・・・。値段の割に、ちっとも美味しくもない冷めた料理が、お皿にちょこんとしか出てこない合コンをやったレストランに・・・につにつ似ている。

意外にもこのフェリーは女性が多かった。みな UAE に行っていたイラン人らしい。でも全員がもの見事に真っ黒でどんな人なのかよく分からない。仮面まで着けているので顔が良く見えない。圧倒的に嫌なフェリーである。

ウン？似ている・・・。女性は仮面を付けていて美人かどうか分からない。でも、仮面以外は上も下も何も着けていなくて、視線がくぎ付けになってしまったあの日の合コンに・・・にっにつ似ている。(すみません。嘘つきました。あれは合コンではなくて、ロシアのバーでした。しかもちっとも似てません)。

まっ、ともかく、だいぶ遅れながらも悪しき合コンフェリーは夕方のイラン/バンドルレンゲに着いたのだった。

イランの概要。

- 1.面積：1,648,195km² (日本の約 4.4 倍)
- 2.人口：6,490 万人 (02 年 3 月)(イラン中銀発表)
- 3.首都：テヘラン
- 4.人種：ペルシャ人 (他にアゼリ系トルコ人、クルド人、アラブ人等)
- 5.言語：ペルシャ語、トルコ語、クルド語等
- 6.宗教：イスラム教 (主にシーア派) キリスト教、ユダヤ教、ゾロアスター教
- 7.略史：紀元前 5 世紀 アケネス朝ペルシャ
紀元 3 世紀 ササン朝ペルシャ
その後、アラブ、モンゴル、トルコ等の異民族支配を受けつつもペルシャ人としてのアイデンティティーを保持
1925 年にパフラヴィ (パーレビ) 朝が成立。
1979 年にホメイニ師の指導のもとイスラム革命
1980 年~90 年イラン・イラク紛争



イランの旅

この禁断の国イランを、如何に早く脱出できるかを考えていた。

地図をよく見ると、ちょっと東に行けばパキスタンという場所に、何と既にいるではないか。

テヘランにも行かず、イランの東をちょっとかじっただけで、『俺はあのイランを旅してきたぜ、何でも聞いてくれよ』と言えるかどうか分からないが、ここはさっさとパキスタンに抜けるべし、と決めた。

もうのっけからイランは嫌な国と決めつけて書いているが、実はこのイランには過去に個人的に悪い印象があるのである。



イギリスの作家 Salman Rushdie 氏が、【Satanic Verses】という本を執筆した。マホメッドを冒瀆し、徹底的にイスラムをおちょくった本である。これにイランの首脳部が激怒。この作家に【死刑宣告】を出し、殺した英雄には賞金を出す、という公告をした事がある。

この本を日本語に翻訳したのが、筑波大の五十嵐助教授であった。当然、彼にも【死刑宣告】が下る。

そして実際に 1991 年 7 月 11 日未明、彼は大学の構内で殺されてしまったのである。ニュースでは恐らくイスラム系だろう、でもイラン人かどうかもわからない、犯人の手がかり無し、という話だった。

しかし後日、筑波中央警察署から私のアパートに電話があり、

『あなた、あの深夜、10 日夜から 11 日朝にかけてですが、一体どこにいましたか？』
と聞いてくる。

おい、俺って疑われてんのかい。

実はあの夜、当時大学院生であった私は、殺された現場から 300 メートルしか離れていない実験室で、一人徹夜で実験していたのであった。なるほど、確かに私にはアリバイがないではないか・・・。

『えっ、私じゃありません』

『いや、そんな事は聞いていません』

なんていうやり取りがあって、因みに未だに犯人は捕まっていない。

イラン人かどうかわからないが、だいぶ怖い印象を持つと共に、この日本のナイスガイを容疑者にしないで欲しいし、どうでもいいが 7 月 11 日は私の誕生日ではないか、などと思った(因みにこの日はセブンイレブンの日で、7 ELEVEN の最後の E は小文字である。さらにどうでもいいが最近ではナインイレブンを押され気味で寂しい)。

港街 バンダルレンゲ

そんなイランに来てしまっているのである。バリバリの先入観から、どの男も胡散臭い顔をしている様に見える。ここのイラン人はテレホンカードの束を持っていない。おかしい、あれはイラン人の必須アイテムではないのか。何だか怪しい。むちゃくちゃ警戒する私。

トルコからイランを通過してパキスタン、もしくはその逆コースをたどる際、旅行者は普通、このバンダルレンゲという街にはこないのとて日本人が珍しいらしかった。

これまで会った男性の旅行者が口をそろえて言うのは、もうイランは以前ほど親日的ではなくて、若者に至っては、馬鹿にしたり嫌がらせを仕掛けてきたりして来て相当ひどい、というものだった。

ところがここバンダルレンゲでは、“チャイナ？”と最初に聞かれるが、“ジャパーン”というとなら誰もが大歓迎してくれて、あれっ？という感じだ。聞いていた話と違う(因みに、イランという国では、女性はさらに親切にしてもらえらしい。でもチカン行為も多いのはアラブと一緒にいたい)。

この街で随一と噂されるホテルに行ってみる。でも、到着したホテルは結構ボロかった。

随一というよりは、外国人が泊まれるホテルはこの街で一軒だけらしい。値段は 60,000 リアル(772 円)。もちろんシャワーもトイレも水道も共同。トイレはむちゃくちゃ汚く、また一步中国

に近づいてきた事を感じた(何て書くと怒られるかな)。

でも、部屋には冷房が入っていた。

長く滞在したエジプトが無茶苦茶暑く、UAE では野宿なんかしたもんだから、冷房の部屋がすごく冷えていて嬉しい。これまでの暑さを帳消しにする様に、ガンガンにきいている。もう寒いくらいだ。

いや実際に寒い。安宿の冷房は、調節がきかなかったりするので問題である。

この宿で、あっという間に風邪をひいた。

酒なし、熱あり。街にきれいな女性姿なし、宿のベッドに南京虫あり。そして栄養のある美味しいものなし、と最悪のスタートであった。

イランの不味いもの

イランの北の方にはカスピ海があって、キャビア丼にひかれなくもないが、同時にこの時期はラマダンだし、ワインも飲めないのであきらめた。いつか後悔しそうだ。

それでも、6 千万人からの方が生きているんだから何がしか美味しい飯があるだろうと期待していたが、私の行くところには何もなかった。

夕方のパン屋さんはすごい活気があって、大勢がパン屋さんに並んでいる。薄手のパンは、どの国でも大抵は、釜の内側の壁に張りつけて焼くのだが、この街で行ったのパン屋さんでは、こねた生地を 25 センチ大にして台に載せ、回転すしの様に釜の中で一周してくると焼き上がりっていう、最新式のシステムだった。

しかしそのパンはかなりパリパリしていて、あまりおいしそうではない。

見ている分には、作っている人がとても真剣勝負って感じで感心したが、やっぱり美味くはなかった。



イランのパン屋さん。どの国でもそうだけど、夕方のパン屋さんはものすごい活気があってみてて飽きない。

腹が減ったままだが、どこを歩いてもちゃんとしたレストランが見当たらない。

一方、いかにもファーストフードというハンバーガー屋さんは多い。仕方がないので入ってみる。ザムザムコーラと呼ばれる、コカコーラに似せたコーラとハンバーガー合わせて 5000 リアル(64 円)。このハンバーガー、値段はいいとして、味は 2 度食べれば飽きる。

というのも、具はお店のオリジナルではなくて、袋に入ったハンバーグを焼くだけ。しかもあまりジューシーではない。

街に多くある食堂は、このハンバーガーもしくは似たような味のサンドイッチ屋さんである。他にはないのかよ、と思うほどこれしかない。

この国の食文化は一体どうなっているんだろう。これがイラン料理とは思えないし、国民食のは

ずがないのだが、これしかないのであった。モスバーガーよ来れ、イランへ。

飲み物はいつもザムザムコーラを始めとする炭酸系の甘い物。イランの人たち、早死にしそうだ。青汁のキューサイよ来れ、イランへ。

この街だけではなく、どの街もハンバーガーやさんの様なごくごく安っぽい食堂ばかり。いつも真剣に探したが、なかなかちゃんとしたレストランは見つからない。イランの外食産業、かなり発展が遅れているみたいだ。

バンドルアバスという大きな街には、ショッピングセンターも、映画館やゲームセンターが入ったの娯楽コンプレックスもあったのだが、建物の中にはレストランが一切ない。

あれだけ人が入っていれば、食べ物の店は大繁盛だと思えるのだが、一切ないってのはとても不思議だ。吉野屋よ、来れイランへ。

30分ほどさんざん歩いて、レストランをようやく見つけた。何と地球の歩き方が紹介していた店だった。レジ前には、切り抜きが張ってあってフィッシュ&ライスが19,000リアルと書いてある。しかし現在は25,000リアル(322円)。

因みにシリアの宿で売ってもらった5年前の地球の歩き方“イラン編”を持ち歩いているのだが、見ると11,000リアルと書いてあった。物価上昇中のようなのである。

内容は薄っぺらいパン、サラダ、トマト味のスープ、フィッシュフライが乗っているライスおよびザムザムコーラだ。これで322円になってしまうとは...

因みに味はどれもまずい。ザムザムコーラが一番美味かった。



ごく最近オープンしたらしいショッピングセンター。たくさんの人でこったがえしていた。



フィッシュ&ライス。一見美味そうでしょ。でも不味いんだな、これが。醤油を使うと何とか食える。

イランの美味しいもの

ところが・・・ついに見つけた美味しいもの。ここでイランの美味しいものベスト3の発表。

- 一位：シュークリーム
- 二位：ソフトクリーム
- 三位：ピスタチオ

ここで、ある日の私の夕食。

ホテルを出てレストランを探す。

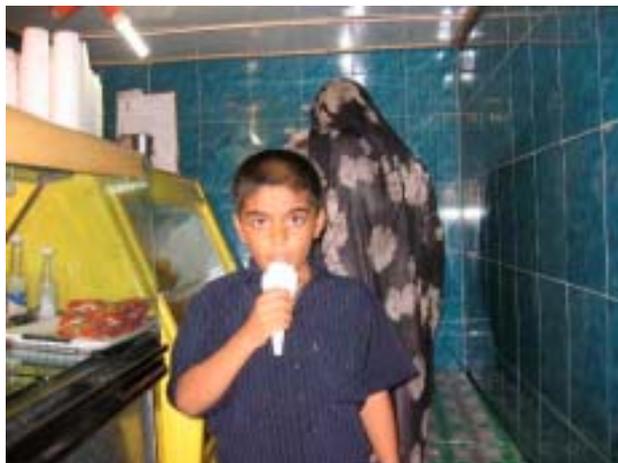
取りあえずおなかが空いているので、拳ぐらいの量のピスタチオを買って歩きながら食べながら探す。値段は 5000 リアル(64 円)である。

いつも通り、レストランはなかなか見当たらない。ハンバーガー屋さんはあるが、あんなもの毎日は食えない。

ふと見るとソフトクリーム屋さんが。もちろん買ってみる。

一個 1000 リアル(13 円)という安さ。美味しい。これには感動、幸せ。

子供の写真を撮る振りをして、お母さんのショール姿を撮ろうと思った。95%の人が黒ずくめなのだが、このお母さんはなかなかオシャレだ。でも恥ずかしがって隠れてしまった。残念。



ソフトクリームを食べる少年。本当は、珍しくカラフルなショールを被っている親に興味があったのだけど、隠れちゃった。

しかしソフトクリームでは腹が膨れない。

ふとみると洋菓子屋さんに、シュークリームが。もちろん買ってみる。

イランのシュークリームはめちゃ美味しい。数年前から日本でもシュークリーム専門店が登場し、味はかなりのものだが、イランも負けちゃいない。外側のモナカの中には、生クリームがずっしり詰まっている。大きさは店によるが、日本の物の半分くらい。

これで一個 1000 リアル(13 円)である。はっきり言ってハンバーガーより何倍も美味しい。冷たく冷やしてくれているので、その場で 2 個食べる。う~ん、美味しい、幸せ。

デザートを先に食べてしまっているが、それでも一応、レストランを探す。

でも見つからない。すると別のソフトクリーム屋さんが現れる。迷わず買ってみる。

どうもさっきのとは味が違う。今度はねっとり系のソフトクリーム。これも一個 1000 リアル(13 円)。これはこれで実に美味しい、幸せ。

ふと見ると、別のシュークリーム屋が。これも一個 1000 リアル(13 円)である。思わず 2 個買う。豆腐の容器みたいなプラスチックに入れて渡されるので、持ち運びにくい。結局そのままホテルに帰る事に。食べてみると、これも美味しい、幸せ。

でもって本日の夕食、これにて終了。

つづく